

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神埼市立仁比山小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校全体として、落ち着いた毎日を送ることができた。職員一人一人が自分の役割を責任をもってやり遂げた結果であったと考える。また、役割以外の部分でも助け合い支え合いながら、風通しのよい職員間の雰囲気そうさせたと感じる。加えて、具体的な到達目標を立てたことで取り組みやすくなったと思う。 ・来年度も集中豪雨や台風・地震等の自然災害等が、予測される。また、不審者事案や交通事故への対応は、常時危機意識をもってレベルアップしていく必要があり、安心安全な学校運営に全職員一丸となって取り組んでいきたい。とりわけ、保護者、地域との連携を密にすることがより重要になってくると考える。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、共に学び、心豊かにたくましく生きる「仁比山っ子」の育成
3 本年度の重点目標	①学力の向上 ②心の教育の充実 ③健康・体力づくり ④開かれた学校 ⑤安全・安心な学校 ⑥特別支援教育の推進

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○児童の家庭学習の習慣化	●学力向上対策評価シートに示したマイルタイムの成果指標を達成した教師90%以上 ○家庭学習時間の学年目標達成率90%以上	・学び部と研究推進委員会が連携をとり、【スキルタイム】と授業研究会が効率的に機能するようにする。 ・児童の学習状況の分析を行い、児童に身に付けさせたい力を明確にする。 ・「親学・子学」を活用し、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図る。	B B	・マイルタイムの成果指標を達成した教師の割合は、75%である。今後も、指導法改善やスキルタイムの充実を図ることで、基礎・基本の力を高めていく。 ・「学習頑張ろう週間」では、多くの学年が平均値で目標時間を達成することができた。個々で見ると達成率は77%となっており、個別対応が必要である。	B B	・マイルタイムの成果指標を達成した教師の割合は、72%で目標を達成することができなかった。スキルタイムのやり方を再検討したり、個に応じた指導法改善を行ったりしていきたい。 ・達成できた児童の割合は、平日89%、休日71%で目標を達成することはできなかった。しかし、休日にも家庭学習に取り組んでいる児童の割合は増えてきており、今後も宿題提出の徹底、自学への取組や家談の励行を進めていきたい。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「自分の学校が好き、楽しい」という児童の割合90%以上 ○いじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・道徳の時間を中心にして愛校心に関する指導を積極的に行う。 ・学校の魅力や自分たちの長所を考える授業を工夫して実践する。 ・毎月1回、「なかよしアンケート」を実施し、予防的支援に努める。 ・QUTテストを2回を実施し、研修会をもち、比較分析を行い、学級経営に生かす。	A A	・学校が好き、楽しいという児童は、90%で目標を達成していた。 ・学校のよいところを言える児童も多く、不登校の児童は一人で、週1回、担任と面談している。	A A	・学校がすきと答えた児童の割合は92%で、保護者も97%が「子どもは学校が好き」と答えていた。 ・地区のよさや素晴らしいさを生かした教育活動 ・いじめ防止の取組や問題あれば、適切な指導をしていると答えた教員は90%以上で目標を達成した。なかよしアンケートやいじめアンケートも計画的に行い、気になる児童への対応			
●健康・体力づくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●運動習慣の改善や定着化	○ハンカチ、ティッシュの所持率、マスク着用率90%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上 ●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童70%以上	・特別な教科道徳や他の教科を通して、自分の夢や将来の目標を意識できる内容を設定する。 ・身近な先輩や地域の方から経験談等を聞く機会を設定する。 ・点検表やカード等を整備し、意識の向上を図り、向上した場合は、称賛する場を設ける。 ・個に応じて給食量を調整させるとともに、食の大切さを適切に学ばせる。 ・運動の特性を理解させ、苦手な運動を授業の一部に取り入れ、体力づくりに親しむようにする。	B A	・授業や生活の様子を見ていると明るく伸び伸び生活している児童が多く、注意を受けても素直に聞いて反省できる児童が9割以上である。 ・決まりを守って生活しようという意識も保てるようになってきた。 ・マスクは、ほぼ全員つけているが、途中はずして、つけていない子どもには、学校準備マスクを渡してつけさせている。 ・健康に食事は大切であると考えている児童が90%以上である。 ・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童が70%を超えている。	B A	・体育後給食後などマスクを外した後のマスク忘れが、繰り返し呼びかけ等の指導で、マスク着用の徹底につながった。 ・各学級での学級活動や委員会による全校の取り組みなどにより、家庭での食事や給食の大切さを意識できた。 ・授業以外で、運動やスポーツをする時間をしっかりと確保できていた。			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○信頼される教職員としての意識の向上	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○コンプライアンス意識を高めるとともに服務規律の保持・徹底を図る。	・業務の効率化を図り退勤時刻を設定(退勤時刻18:00)し、時間外勤務時間月平均45時間以内を目指す。また、定時退勤日を設定し、確実に実施する。 ・「サービスゼロの日」を月2回設定し、コンプライアンス意識の向上と服務規律の保持徹底について振り返る。 ・危機管理マニュアルの見直しと報告・連絡・相談の徹底、関係機関と連携する。	B B	・全職員の時間外勤務時間の平均34時間。平均45時間を超える職員が2名いる。 ・定時退勤日は、意識して時間外勤務を減らしていく傾向になってきている。 ・毎月の「運転チェックシート」実施により、交通加害事故防止に対する意識が高まっている。 ・危機管理マニュアルに「犯罪予告対応マニュアル」を追加した。 ・さらに報告・連絡・相談の徹底を図ってきたい。	A B	・全職員の時間外勤務時間の平均29時間。平均45時間を超える職員が2名いる。 ・殆どの職員が定時退勤日の退勤時刻(17:30)を意識し守ることができている。 ・毎月の「運転チェックシート」の結果は向上しているが、それが実際の運転に反映出来ていない事例が2件発生した。 ・さら危機管理マニュアルの見直しと報告・連絡・相談の徹底、関係機関との連携を図っていく。			

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	地域や保護者に対する学校生活の様子や学校行事などの周知	・授業参観への保護者参加率80%以上 ・学校ホームページの更新週に1回以上	・学校行事等への案内状を随時発行し、学校行事への関心を高める。 ・土曜参観、「仁比山祭り」、フリー参観等は地域に積極的に参加を呼びかける。 ・学校ホームページの更新と充実を図る。	A	・ホームページ、学校便り、学級便り等による情報提供に対し、保護者による学校評価アンケートの結果は約98%が「よい、だいたいよい」であった。 ・年度初め「はなまるメール」への保護者登録率を100%にした。	A	・コロナ禍による学校行事の縮小や中止により、保護者や地域の方が学校に足を運ぶ機会が減少した。 ・ホームページ、学校便り、学級便り等による情報提供に対し、保護者による学校評価アンケートの結果は約96%が「よい、だいたいよい」であった。 ・「はなまるメール」への地域登録者数を増やした。			
○安全・安心な学校づくり	児童の安全意識や危機回避能力の向上	・ヘルメットの着用率、防犯ブザーの携帯率100% ・交通事故発生件数ゼロ ・生活事故発生件数ゼロ	・交通安全教室や学級指導を通して、自転車の乗り方や歩き方の指導を行う。 ・全校朝会や学級指導においてルールとマナーを周知させ、遊具の適切な使い方、室内での過ごし方について継続的に指導し、安全確保に努める。 ・特別支援協議会を開き、個別の支援・指導の現状や方向を確認する。 ・必要に応じて専門機関・保護者を交えた支援会議を時機を逃さず実施する。	B	・ヘルメット着用率、防犯ブザー着用率ともに85%強であり、引き続き意識を高めていく必要がある。 ・大きな交通事故・生活事故については今のところ発生していない。 ・遊具で危ない使い方をすることが見られたことがあった。今後も、各学級で指導を継続していく。	B	・児童への毎月のアンケートでは、直近の結果で、ヘルメット着用率は(自転車を使用する児童において)95%以上、防犯ブザー着用率は全校児童で90%以上であった。 ・上記において、自己申告の面もあり数値と実感が完全に一致するものではないと考えるが、各学級での指導により少なからず改善している。しかし、100%には届かなかった。 ・職員アンケートの結果、全職員が「共通理解のもと、支援が必要な児童に全学的な支援体制ができている」と回答していた。教師間で連携を取りながら、必要に応じて支援会議を開いたり、専門機関の助言をもらったりしてよりよい支援ができた。			
○特別支援教育の充実	○個に応じた特別支援教育を関係機関と連携	○日ごろの児童の様子(生活、学習)を細かく観察し、教師間及び支援員と情報交換したり校内委員会協議したりしながら個に応じた支援を行う。	・特別支援協議会を開き、個別の支援・指導の現状や方向を確認する。 ・必要に応じて専門機関・保護者を交えた支援会議を時機を逃さず実施する。	A	・教師間および支援員と情報交換を密にし、よりよい支援について話し合いながら取り組んでいる。 ・とくに気になる児童については専門機関と連携して取り組んでいる。	A				

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・校内研究の国語科を中心に授業力向上に努めることができた。学習状況調査や標準学力テストの結果から見えてきた課題もある。来年度は算数科を中心に授業力向上、学力向上に努めていく。 ・学校全体として、落ち着いた毎日を送ることができた。職員一人一人が自分の役割を責任をもってやり遂げた結果であったと考える。また、役割以外の部分でも助け合い支え合いながら、風通しのよい職員間の雰囲気そうさせたと感じる。加えて、具体的な到達目標を立てたことで取り組みやすくなったと思う。 ・コロナ禍の影響により、総合的な学習等で地域の方々の協力を得る機会が減少したが、来年度は諸団体、地域の方、保護者の協力体制を今後も維持し、児童の学習活動に積極的、計画的に取り入れて充実した学習を行っていく。 ・来年度も集中豪雨や台風・地震等の自然災害等が、予測される。また、不審者事案や交通事故への対応は、常時危機意識をもってレベルアップしていく必要があり、安心安全な学校運営に全職員一丸となって取り組んでいきたい。とりわけ、保護者、地域との連携を密にすることがより重要になってくると考える。</p>
----------------	---